

当たり前前の教育を今こそ 教育のつどい大阪に180人

「教育のつどい大阪2016」の全体会が15日、貝塚市コスモスシアターで開催され、180人以上が参加しました。東京大学大学院の勝野正章教授が「今こそ、当たり前前の教育、子育てを」と題して講演し、安倍内閣による「教育再生」のねらいを明らかにし、「教育に当たり前前を取り戻そう」と語りました。

つどいは、泉南地域の教職員による民舞「南中ソーラン」とピースウエーブコンサートによる「ぞうれっしゃがやってきた」の合唱でスタート。大教組教文部長は基調提案で、次期学習指導要領の改訂について、道徳が教科化され、愛国心教育や「社会のルール」が強調されているとし、「子どもたちの心を評価することが最大の課題だ。教育が競争をするための人づくりの道具にされようとしている。」と厳しく批判しました。



また、これまでにないほどの「詰め込み」教育や小学校からの英語教育の導入、中学校チャレンジテストや高校つぶしなどの問題を挙げ、「子どもから失敗しながら成長していく機会をうばっている。子どもの発達に徹

学校は子どもが人格を形成する場 勝野正章教授の講演より

親の年収と学力には
相関関係が

文科省が委託した調査によると、全国学力テストの小学6年生国語Aで、年収200万円未満の家庭の子どもの平均正答率が53%だったのに対し、年収1500万円以上の家庭の子どもの正答率は75.5%。算数Bでは、年収200万円未満で正答率が45.7%に対し、1500万円以上では正



底的に向き合うという教育の営みが否定されてい



調査結果は家庭の収入や学校外の教育支出と子どもの学力に相関関係があることを示しており、家庭に経済的ゆとりがなけ

教育のつどい大阪2016

教科別分科会
・11月5日(土)9:30~
・泉佐野市立中央小学校

教育シンポジウム
「これでいいのか大阪の教育」
・11月13日(日)14:00~
・岸和田市立浪切ホール

問題別分科会
・11月27日(日)9:30~
・岸和田市立北小学校

れば、子どもたちは将来の可能性を最初から閉ざされていることになりかねない。

先進国の中で最も劣悪な学習環境

日本の教育がグロテスクな姿をしている。ここまでは高校教育が学力という物差しで階層化されている国は日本以外に断じてない。すぐに義務教育にも階層化が下りてくる。進学をあきらめ、就職しても正規として働けない

る。」と報告。こうした教育への攻撃に、保護者や地域住民が力を合わせ

て学校と教育をつくる営みこそが必要であると強調しました。

人たちを学校教育が増やしていくことになる。学校や家庭は、子どもたちが文化や人と関わり人格を完成していく場である。その当たり前前のことを教師同士が語りあい、保護者といっしょに子どもの成長を喜ぶことが、お互いを尊重しあいながら暮らす社会をつくることにつながる。そのために必要なのは、子どもたちの学習環境と教職員の働く環境を抜本的に改革することである。

生活と権利を守るため、講師の方も泉北教組に加入してください。組合費は月千円です。